

環境科学総論 Seminar on Environmental Sciences Research		全専攻		基礎必修科目				
		1年	前期	4単位	必修	講義		
		担当者(部屋番号)						
環境科学研究科全教員								
【 授 業 目 標 】								
<p>本講義は、本大学院環境科学研究科教員全員によって行われるもので、エネルギー、水資源、森林の保護、環境ホルモン等、本学の教員それぞれの研究のテーマや分野、社会的実践についてオムニバス式講義を通して、学生それぞれが環境科学の研究を行うための基礎知識の修得をめざす。</p>								
【 授 業 方 法 】								
<p>授業は、環境科学研究科の教員らによるオムニバス形式で実施されるもので、講義やディスカッション、課題、実践などを盛り込んだ形式で行う。各教員による講義はそれぞれ二度行われるもので、一回目は各教員の研究の概要の紹介で、二回目はその復習および事例紹介、応用などについて行う。</p>								
【 授 業 計 画 】								
<table border="0" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> 1 オリエンテーション(柏谷、藤) ヒアリング、カルテ作成 2 環境教育(インタープリテーション)(藤田) 3 自然を舞台にした環境教育(岡島) 4 日本における自然体験活動の動向(関(智)) 5 地域の自律性とヘリテージ・ツーリズム(工藤) 6 ことばやストーリーから環境問題をかいま見るⅠ(藤) 7 自然体験活動の社会的意義・教育効果(関(智)) 8 日本の生物多様性(藤田) 9 資源の活用(上田) 10 日本の森林の現状(田村) 11 地球温暖化対策と環境運動(柏谷) 12 雪資源熱エネルギーの活用Ⅰ(関(康)) 13 1992年の環境と開発に関する国際連合会議(リオ・サミット)とは?(藤) 14 日本の国立公園(藤田) 15 中間ディスカッション(柏谷、藤) </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> 16 ディープ・エコロジーとは?(藤) 17 自然体験型環境教育の実際(関(智)) 18 日本の自然の位置(藤田) 19 地域環境の保存と観光管理(工藤) 20 環境思想の現代的課題(関(智)) 21 地球温暖化による日本の自然への影響(藤田) 22 環境と健康(上田) 23 森林と林業(田村) 24 再生可能エネルギー普及の社会的条件(柏谷) 25 雪資源熱エネルギーの活用Ⅱ、氷核菌、市内河川水質(関(康)) 26 ことばやストーリー性から環境問題をかいま見るⅡ(藤) 27 環境思想と江戸思想(関(智)) 28 ワークショップⅠ 研究構成、講座(柏谷、藤) 29 ワークショップⅡ(柏谷、藤) 30 まとめ </td> </tr> </table>							1 オリエンテーション(柏谷、藤) ヒアリング、カルテ作成 2 環境教育(インタープリテーション)(藤田) 3 自然を舞台にした環境教育(岡島) 4 日本における自然体験活動の動向(関(智)) 5 地域の自律性とヘリテージ・ツーリズム(工藤) 6 ことばやストーリーから環境問題をかいま見るⅠ(藤) 7 自然体験活動の社会的意義・教育効果(関(智)) 8 日本の生物多様性(藤田) 9 資源の活用(上田) 10 日本の森林の現状(田村) 11 地球温暖化対策と環境運動(柏谷) 12 雪資源熱エネルギーの活用Ⅰ(関(康)) 13 1992年の環境と開発に関する国際連合会議(リオ・サミット)とは?(藤) 14 日本の国立公園(藤田) 15 中間ディスカッション(柏谷、藤)	16 ディープ・エコロジーとは?(藤) 17 自然体験型環境教育の実際(関(智)) 18 日本の自然の位置(藤田) 19 地域環境の保存と観光管理(工藤) 20 環境思想の現代的課題(関(智)) 21 地球温暖化による日本の自然への影響(藤田) 22 環境と健康(上田) 23 森林と林業(田村) 24 再生可能エネルギー普及の社会的条件(柏谷) 25 雪資源熱エネルギーの活用Ⅱ、氷核菌、市内河川水質(関(康)) 26 ことばやストーリー性から環境問題をかいま見るⅡ(藤) 27 環境思想と江戸思想(関(智)) 28 ワークショップⅠ 研究構成、講座(柏谷、藤) 29 ワークショップⅡ(柏谷、藤) 30 まとめ
1 オリエンテーション(柏谷、藤) ヒアリング、カルテ作成 2 環境教育(インタープリテーション)(藤田) 3 自然を舞台にした環境教育(岡島) 4 日本における自然体験活動の動向(関(智)) 5 地域の自律性とヘリテージ・ツーリズム(工藤) 6 ことばやストーリーから環境問題をかいま見るⅠ(藤) 7 自然体験活動の社会的意義・教育効果(関(智)) 8 日本の生物多様性(藤田) 9 資源の活用(上田) 10 日本の森林の現状(田村) 11 地球温暖化対策と環境運動(柏谷) 12 雪資源熱エネルギーの活用Ⅰ(関(康)) 13 1992年の環境と開発に関する国際連合会議(リオ・サミット)とは?(藤) 14 日本の国立公園(藤田) 15 中間ディスカッション(柏谷、藤)	16 ディープ・エコロジーとは?(藤) 17 自然体験型環境教育の実際(関(智)) 18 日本の自然の位置(藤田) 19 地域環境の保存と観光管理(工藤) 20 環境思想の現代的課題(関(智)) 21 地球温暖化による日本の自然への影響(藤田) 22 環境と健康(上田) 23 森林と林業(田村) 24 再生可能エネルギー普及の社会的条件(柏谷) 25 雪資源熱エネルギーの活用Ⅱ、氷核菌、市内河川水質(関(康)) 26 ことばやストーリー性から環境問題をかいま見るⅡ(藤) 27 環境思想と江戸思想(関(智)) 28 ワークショップⅠ 研究構成、講座(柏谷、藤) 29 ワークショップⅡ(柏谷、藤) 30 まとめ							
教科書	特になし	評価方法	各担当教員からの評価に基づき総合的に判断する。					
参考書	各テーマにかかる担当教員によって異なる。	留意点	同上					